

## 講演会開会挨拶(石川裕彦会長)

会場にご参集いただいた皆さん、zoom でご参加いただいている皆様、おはようございます。知球会会長の石川です。今年も昨年に引き続き、対面形式と zoom を用いた web 参加形式のハイブリッド開催です。本日は、40 名以上の方にご来場いただくと共に、40 名ほどのオンライン参加の申し込みを戴いています。この講演会は知球会会員以外の方にも公開しており、京大同窓会のホームページや京都新聞を通して御案内しています。



知球会は京都大学理学部地球物理学教室の同窓会として、それまで講座単位で運営されてきた卒業生組織をまとめる形で 2003 年に設立されました。京都大学同窓会が設立されたのは 2006 年ですから、全学組織よりも 3 年ほど先んじていたこととなります。知球会では、例年 2 月に講演会を開催し、叙勲を受けた会員や学会等で大きな賞を受賞された方、3 月末で退職される教室及び協力講座の教員、新たに着任された教員の方々などにご講演いただいています。さらに、地球惑星科学専攻地球物理学分野で修士論文賞を受賞された大学院生の方々に修士論文の成果を発表していただいています。

今回は、この 3 月で定年退職される防災研究所の澁谷先生、今年度着任されて新たに地球惑星科学専攻地球物理学分野の協力講座教員となられた防災研究所の林先生、小暮先生、さらに、昨年度の気象学会賞を受賞された防災研究所の竹見先生にご講演戴きます。また、修士論文賞を授賞された、荻野さん、西上さん、藤田さんの 3 名にご講演いただきます。

会員からのご講演は、奇しくも 4 件とも防災研究所教員によるものとなりました。近年、大規模な自然災害が発生し、メディアで盛んに報道される事もあり、地球物理学に対する社会の関心が高まり、応用研究も重要さを増しているところです。一方、修士論文賞の講演では、地球電磁気、固体地球、大気科学の分野から、若々しい萌芽研究をご紹介戴けると訊いております。本日の講演を通して、地球物理学研究のさまざまな側面を垣間見ることができるとを期待します。それでは、ただいまより知球会講演会を開始致します。